

F*TRAN2007ver.2.0

操作説明書/導入編

第1版

株式会社富士通ビー・エス・シー

はじめに

F*TRAN2007 V2. 0をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

F*TRAN2007は、汎用機やオフコンなど、ホストコンピュータの標準フロッピーディスク形式であるIBM形式フロッピー(IBMファイル)と、パソコンの標準であるWindowsファイルを相互に変換するためのソフトウェアです。

おもな用途としては、汎用機やオフコンのCOBOLデータと、パソコンのCSV形式ファイルとの交換・プリント形式ファイルとの交換・WindowsCOBOLデータとの交換などがあります。また、COBOLのゾーン形式・パック形式をはじめ、豊富なコード変換機能をサポートしています。

日本で販売されたほとんどのホストの漢字をサポートしており、拡張漢字テーブルも標準提供しています。

F*TRAN2007 V2. 0では、Windows7上での動作をサポートしています。

F*TRAN2007のマニュアルには、導入編(本書)、解説編、コマンド編、マルチレコード編、プログラム応用編があります。

2010年4月 株式会社 富士通ビー・エス・シー

Copyright 1997-2010 株式会社 富士通ビー·エス·シー

第1章 インストール

1.1	ハックーン内谷		2
1.2	インストールモードの	種類	3
1.3	インストールの前に…		4
1.4	インストールの実行…		8
1.5	メンテナンスの実行…		6
1.6	アンインストールの実	·行·······3 ·	4
1.7	フォルダ構成		7
	第2章	セットアップ	
2.1	セットアップとは	4	3
2.2	コード変換表とは	4	4
2.3	コード変換表の出荷時	設定4	5
2.4		4	
2.5		$\cdots \cdots $	
2.6	変換設定	5	Ο
	第3章	システム構成	
3.1	扱える媒体	5	8
3.2	動作機種とOS	6	0
3.3	ディスク装置	······ 6	2
	第4章	バージョンアップ内容	
4.1	バージョンアップ内容	······································	4
	第5章	タッチ&トライ	
5.1	I BM→W i nファイ	ル変換6	6
	第6章	サポート・サービスについて	
6 1	サポート・サービフ!?	ついて	6
\cup . I	$\frac{1}{2}$	7	U

第1章

インストール

1. 1 パッケージ内容

インストールの作業をはじめる前に、本製品のパッケージ内容を頭に入れておいてください。

本製品のパッケージ内容は以下のとおりです。

●操作説明書/導入編

操作説明書は5分冊構成になっており、インストール用CD-ROMにオンラインマニュアルとして格納されています。特に導入編は、インストール前にセットアップ画面から表示できますので、最初に必ずお読みください。

●インストール用CD-ROM

本製品のプログラム、および、以下の操作説明書は、 CD-ROM 1枚 で提供されます。

- (1) **F*TRAN2007** 操作説明書/導入編本冊子です。最初に、お読みください。 インストール、セットアップ、システム構成等について説明しています。
- (2) F*TRAN2007 操作説明書/解説編 操作方法がわからない場合、変換仕様、IBM形式仕様などを知りたい場合に、 お読みください。
- (3) F*TRAN2007 操作説明書/コマンド編コマンドについて詳細に説明しています。お客様のプログラムから利用する場合などに、お読みください。
- (4) F*TRAN2007 操作説明書/マルチレコード編 マルチレコードレイアウトのファイルを変換する場合に、お読みください。
- (5) F*TRAN2007 操作説明書/プログラム応用編F*TRAN2007をアプリケーションから利用する場合に、お読みください。
- I BM形式サンプルフロッピーディスク(3.5インチ2HD 1.2Mバイト)1枚
- ●使用許諾契約書
- ●F*TRANサポート・サービス

◆注意 ---- ユーザ登録を行ってください。

本パッケージを購入されたお客様は、必ずユーザー登録を行ってください。登録が完了しない と基本的にサポート・サービスを受けることができません。(詳細は「6.1 サポート・サー ビスについて」をご参照下さい)

1. 2 インストールモードの種類

F*TRAN2007のインストールには大きく分けて2種類のインストール方法があります。

■標準インストールモード

これは、F*TRAN2007にて、はじめて導入されるお客様向けのインストール方法です。 インストールフォルダにはF*TRAN2007本体とテンプレートのみが置かれ、変更の可能 性がある設定ファイルやログなどはログインユーザー毎のローカルフォルダに置かれます。

新規にインストールする場合には、このモードでインストールしてください。

このインストール方法を使う場合は、旧バージョンとはインストールフォルダ構成が変更になりますので、ご利用のスクリプトファイルやバッチファイルへの修正が必要になります。

■2006互換インストールモード

これは、F*TRAN2007 V1.0よりも前のバージョンが、既にインストールされたコンピュータに、上書きでF*TRAN2007以降をインストールする場合等に便利なモードです。全てのファイルがインストールフォルダに置かれます。ただし、F*TRAN2006の「環境」の選択機能をご利用の方については、インストールウィザードによる自動処理だけで引き継ぐことは出来ません。

◆注意 ---- WindowsVista以降は標準インストールモードのみ

Windows Vista以降では無条件に標準インストールモードでインストールされます。 2006 互換インストールモードは選択できません。

◆参考 ---- F*TRAN2006の「環境」とは

「環境」とはF*TRAN2006から搭載された機能のことで、これを使うと、ユーザー毎に保持する「環境群」内に複数のCCT、KKTファイルを一まとめにした「環境フォルダ」を作成することが出来ます。旧バージョンで複数「環境フォルダ」の選択機能を使用している場合は、F*TRAN2007への移行の際にご注意ください。

◆注意 ---- インストールモードの変更の際には、一旦アンインストールする必要がある

二つのインストールモードは、一度、アンインストールしなければ、切り替えられません。あらかじめ、F*TRAN2007を今後どう運用するのかなどを考慮した上でインストールモードを選択してください。

1. 3 インストールの前に

F*TRAN2007をインストールする前に以下の注意文を必ず読んでください。

◆注意 1 -- Windows 9 x 系OSでは動作しない

F*TRAN2007はWindows95/98/98SE/Me上では動作しません。詳しくは『3.2 動作OSと動作環境』をご覧下さい。

◆注意 2 -- Windows NT、およびServer系OSでは動作しない

F*TRAN2007はWindows NT Server、Windows2000Server、WindowsServer2003などのサーバー系OSでは動作しません。また、WindowsNT Workstationも動作しません。詳しくは『3.2 動作機種とOS』をご覧下さい。

◆注意3 -- Windows2000、WindowsXP HomeEditionをサポートしない

F*TRAN2007 V2.0はWindows2000、Windows XP Home Editionをサポートしていません。詳しくは『3.2 動作機種とOS』をご覧下さい。

◆注意 4 -- 64ビット版OSをサポートしない

F*TRAN2007はIPF版、及び、X64版の、Windows製品全てをサポートしていません。詳しくは『3.2 動作機種とOS』をご覧下さい。

◆注意 5 -- スーパーディスクドライブをサポートしない

F*TRAN2006までサポートしていた松下電器産業製スーパーディスクドライブ「LK-RF240UZ」はサポート外となりました。詳しくは**『3.2 動作機種とOS**』をご覧下さい。

◆注意 6 -- インストールには管理者(Administrator)権限が必要

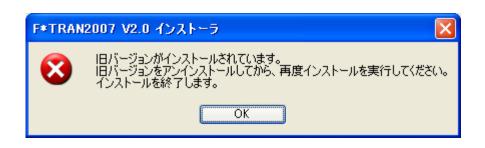
管理者(Administrator)の資格のユーザーアカウントでログオンしてインストールしてください。この資格のないユーザーアカウントでは、インストール出来ません。

◆注意 7 -- 旧バージョンがインストールされたマシンへのインストールの場合は、インストールに先だって設定のバックアップをとること

旧バージョンが既にインストールされている場合、F*TRAN2007をインストールする前に、必ずCCT、KKTファイルなどの設定ファイルはバックアップしてください。

◆注意 8 -- 旧バージョンがインストールされたマシンへのインストールの場合は、インストールに先だってアンインストールする事

旧バージョンが既にインストールされている場合、そのバージョンによってはF*TRAN2007のインストーラ起動時に以下のアンインストールを求める画面が表示されてインストーラが終了します。一旦、旧バージョンをアンインストールしてから、再度F*TRAN2007のインストーラを起動してください。



■USB接続フロッピーディスクドライブ(USB-FDD)について

F*TRAN2007は、以下のロジテック社製USB接続フロッピーディスクドライブをサポートしています。

LFD-A1U/A2U, LFD-31UE/U4

USB接続フロッピーディスクドライブを使用する場合は、必ず、F*TRAN2007のインストールを行なう前に、Windows環境においてドライブが認識されていることを確認してください。

<注意>

以前に、松下電器産業製スーパーディスクドライブで F*TRAN2006、またはF*TRAN2000を使用していた場合は、つぎの手順でインストール作業を行なってください。

- ①F*TRAN2006、またはF*TRAN2000をアンインストールします。
- ②パソコンを再起動します。
- ③USB接続フロッピーディスクドライブをパソコンに接続し、Windowsの環境でドライブが認識されていることを確認します。
- ④F*TRAN2007をインストールする際に、フロッピードライバ選択で「USBフロッピードライブ」を選択してインストールします。

F*TRAN2006、F*TRAN2000のアンインストールの手順は、それぞれのマニュアルを参照してください。

●USB接続フロッピーディスクドライブの制限事項

(1)削除セクターの扱い

USB接続フロッピーディスクドライブにてF*TRAN2007を使用すると、フロッピーの削除セクターが通常のセクターと同様に扱われます。通常、この相違が問題になることはありませんが、例えば、ディスクコピーの時にINDEX部の削除セクターは、通常のセクターとしてコピーされるので、厳密なコピーではなくなります。

(2) 扱える I BM形式フロッピー

 $2 \, \text{HD} - 2 \, 5 \, 6 \, \sigma \, \text{IBM形式}$ フロッピーのみリード/ライト/フォーマットが可能です。 $2 \, \text{HD} - 5 \, 1 \, 2$ 、 $2 \, \text{HD} - 1 \, 0 \, 2 \, 4 \, \alpha$ どの IBM形式フロッピーは利用できません。

(3) ディスク装置の扱い

USB接続フロッピーディスクドライブは、F*TRAN2007から同時に複数台は使用できません。1台のみで使用してください。

F*TRAN2007がUSB接続フロッピーディスクドライブにアクセスしているときに、 USBケーブルを抜かないでください。

また、他のアプリケーションがアクセス中のUSB接続フロッピーディスクドライブにF*TRAN2007が同時にアクセスするとエラーになります。

1. 4 インストールの実行

◆注意 ---- 旧バージョンがインストールされている場合は手順が異なる

新規にインストールする場合と、旧バージョンがインストールされている場合とでは手順が異なる部分があります。旧バージョンがインストールされている場合のみに関係する手順には手順番号に「★①」のように記してあります。新規にインストールする場合には「★」マークが付いた手順は読み飛ばしてください。

■インストール作業

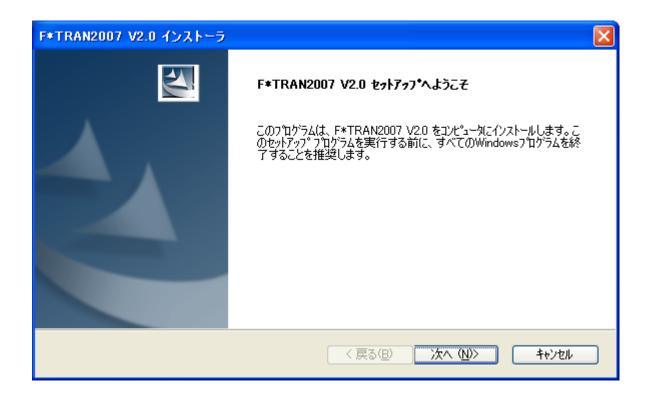
- ① OS を起動し、管理者 (Administrator) の資格のユーザアカウントでログ オンします。
- ② 提供CD-ROMをドライブにセットします。
- ③ F*TRAN2007のインストールプログラムが自動で起動します。「F*TRAN2007をインストール(I)」を選択してください。
 - (OSの設定によっては自動で起動しない場合があります。その場合は<math>Startup. exe を起動させてください)



◆参考 ---- ReadMe、導入編をご覧ください

上記画面から「Readme(R)」を選択すると、製品についての最新情報が記載されている Readme が表示されます。また、「操作説明書/導入編を開く(M)」を選択すると導入編のマニュアルが表示されます。

初期画面から「F*TRAN2007 をインストール(I)」を選択すると下記画面が表示されます。「次へ(N)>」を選択してください。

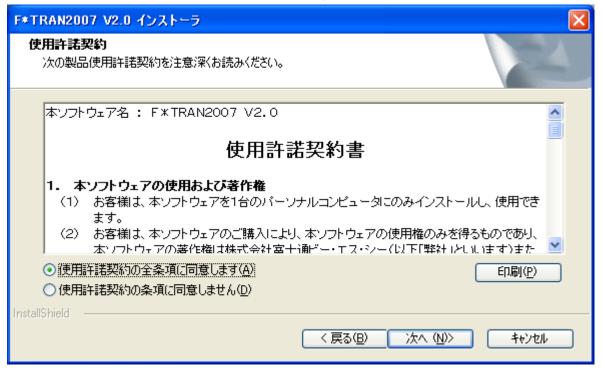


◆注意 ---- WindowsVista以降ではユーザーアカウント制御画面が表示される

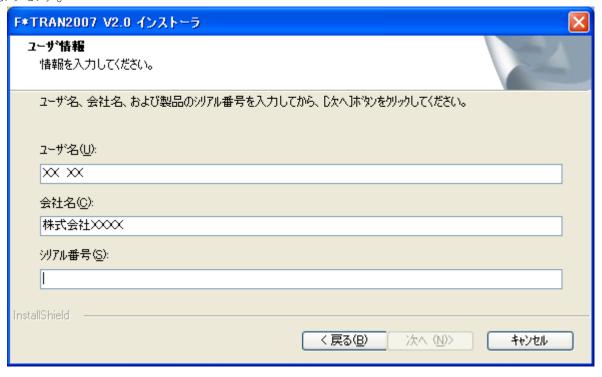
Windows Vista以降の場合はインストーラ起動時に以下のユーザーアカウント制御による確認画面が表示されます(OSの設定によっては表示されない場合もあります)。この場合は「続行(C)」をクリックしてください。インストーラ処理が継続されます。「キャンセル」をクリックするとインストーラが起動しません。



④ 用許諾契約書に同意の上で次に進んでくさい。

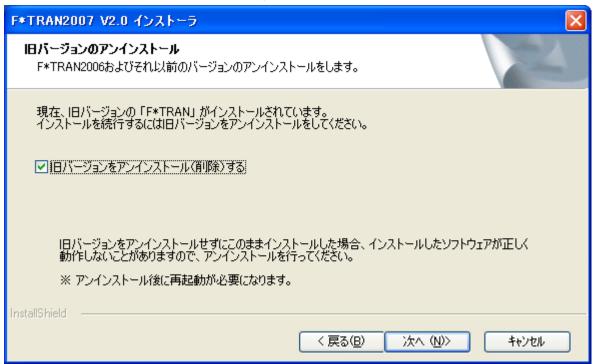


⑤ユーザー名(弊社へのユーザー登録者名)、会社名、パッケージ添付のシリアル番号を 入力してください。全ての項目を入力すると「次へ(N)>」ボタンが選択できるように なります。

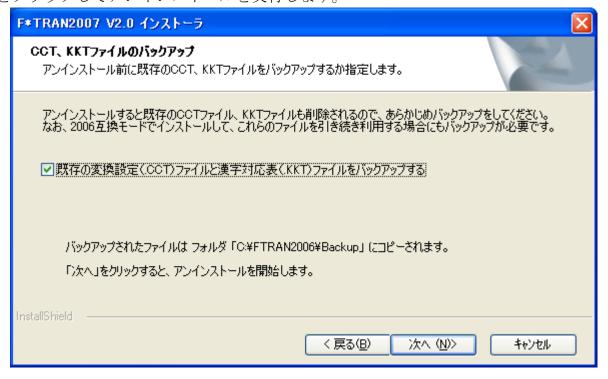


F*TRAN2006、またはそれ以前のバージョンがインストールされている場合は手順⑥ へ、新規インストールの場合は手順⑩へ進みます。

★⑥旧バージョンを削除するかどうかを選択します。削除しないで次へ進むことも出来ますが、 その場合の正常動作は保証されません。



★⑦手順⑥で「旧バージョンをアンインストール(削除)する」にチェックを入れている場合に表示されます。既存のCCT、KKTファイルをバックアップするかの選択をして「次へ」をクリックしてアンインストールを実行します。



◆注意 ---- 既存のCCT、KKTファイルを残すことについて(その1)

手順⑦で、CCT、KKTファイルを残すということは、あくまでバックアップを取るという意味です。前バージョンの設定を引き継ぐという意味ではありません。

◆注意 ---- 既存のCCT、KKTファイルを残すことについて(その2)

手順⑦で、CCT、KKTファイルをバックアップする処理が実行されますが、これはインストールフォルダ内のCCT、KKTファイルだけに留まります。もし、F*TRAN2006以降にて導入された「環境」選択機能を使用しており、複数の「環境」にCCT、KKTファイルが存在する場合は、それぞれの「環境」内のファイルを手動でバックアップする必要があります。

⑧手順⑦で「次へ(N)>」をクリックするとアンインストールの確認画面が表示されます。 「はい(Y)」をクリックしてください。



前バージョンをアンインストールするかどうかの確認メッセージが表示された後、旧バージョンのアンインストーラが起動し、以下のダイアログが表示されます。



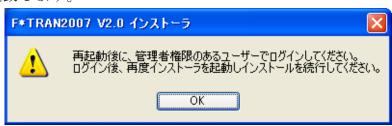
◆注意 ---- 旧バージョンアンインストールのメッセージについて

上記画面は、旧バージョンのアンインストーラにより表示されています。「選択したアプリケーション」とは、旧バージョンのF*TRANのことを指しています。

★⑨アンインストールが終了すると、パソコンの再起動を則す画面が表示されます。 インストールを継続するにはパソコンを再起動してください。再起動せずにインストールを 継続した場合は、F*TRAN2007が正常に動作しない場合があります。



★⑩手順⑨で「完了」をクリックすると、以下の画面が表示されます。「はい、今すぐコン ピュータを再起動します。」を選択していた場合、以下の画面で「OK」をクリックすると パソコンが再起動します。



◆注意 ---- アンインストール後は必ずパソコンを再起動する

旧バージョンをアンインストールした場合、インストールを継続する前に1度、パソコンを再起動してください。再起動せずにインストールを継続しても、インストールは正常に終了しますが、F*TRAN2007が正常に動作しない場合があります。

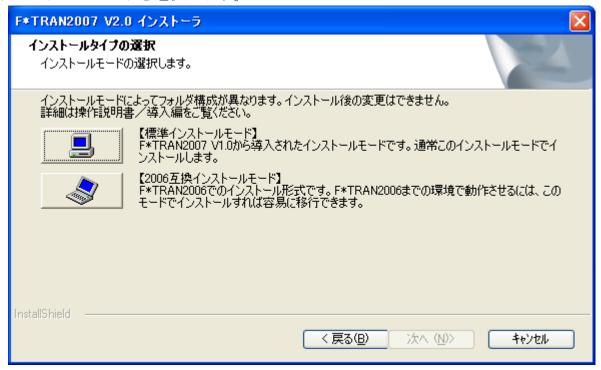
◆注意 ---- 再起動後、インストールは自動的に継続しない

パソコンの再起動後、インストールは自動的に継続しません。再度、インストール用CD-ROMをパソコンにセットしてください。インストーラが起動します。CD-ROMをセットしてもインストーラが起動しない場合は、エクスプローラでCD-ROMを開き、「Setup.exe」をダブルクリックして起動してください。

★⑪インストーラが起動すると、以下の画面が表示されます。「次へ(N)>」をクリックしてください。



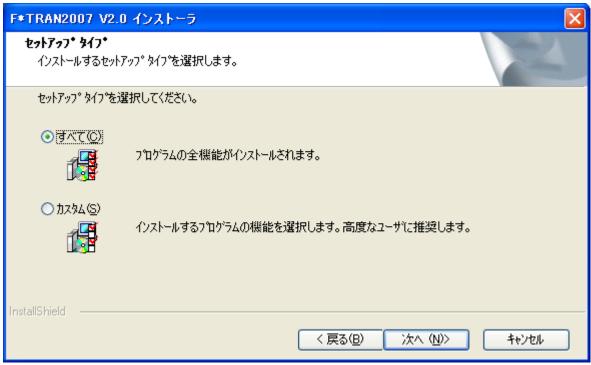
(12)インストールモードを選択します。



◆注意 ---- WindowsVista以降は標準インストールモードのみ

Windows Vista以降では無条件に標準インストールモードでインストールされます。従って、手順⑫の画面は表示されません。

③セットアップタイプ選択します。基本的には「すべて」を選んでインストール するのが良いでしょう。



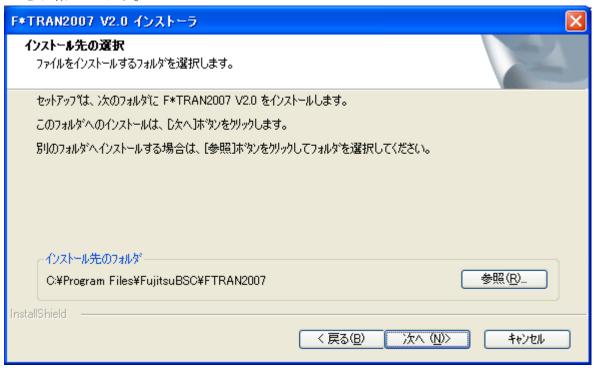
◆参考 ---- セットアップタイプについて

2章では「セットアップ」について解説しますが、この「セットアップ」と、ここでの「セットアップタイプ」とは互いに関係のない用語です。

⑭セットアップタイプで「カスタム」を選択した場合、インストール先の選択後に表示される 画面です。インストールしたいものを選択してください。ただし、「プログラム」のチェックは外せません。

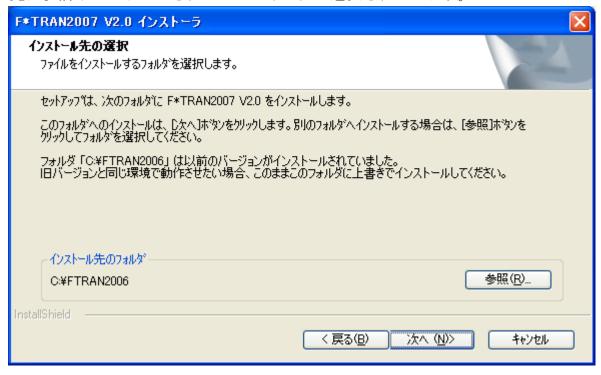


®インストール先のフォルダを選びます。初期状態の指定のままインストールする ことをお勧めします。



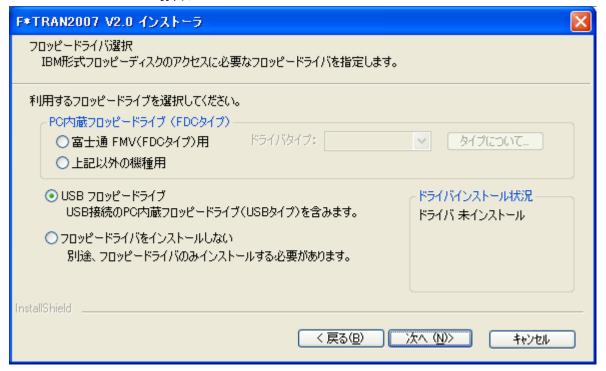
◆注意 ---- 旧バージョンがインストールされている場合

F*TRAN2006、またはそれ以前のバージョンがインストールされており、手順⑥でアンインストールを選択した場合で、2006互換インストールモードを選択していると、インストール先は以前インストールされていたフォルダが選択されています。



- ⑩使用するパソコンの機種やドライブの種類により、インストールするフロッピードライバを 選択します。
 - ※この画面はパソコンのOSにより選択肢が異なります。

<Windows X Pの場合>

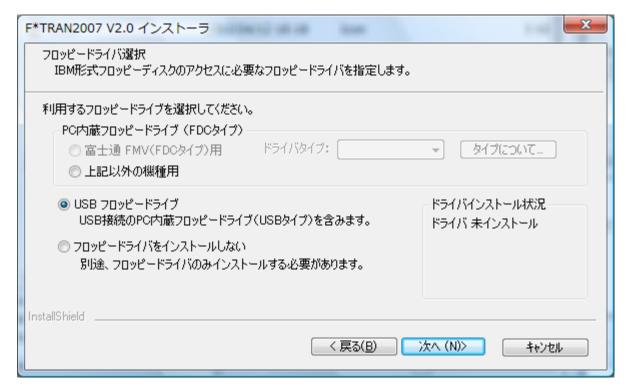


◆注意 ---- 内蔵FDDでは動作が確認されたパソコンのみ動作可能

F*TRAN2007を内蔵フロッピーディスクドライブで使用する場合、パソコンの機種により、F*TRAN2007が動作しない機種があります。インストールする前にご利用予定のパソコンでF*TRAN2007が動作するかどうかの確認をしてください。

弊社ホームページでは動作を確認するためのツールを提供していますので、ご利用ください。

<WindowsVista以降の場合>



◆注意 ---- WindowsVista以降では内蔵は選択不可

Windows Vista以降にインストールする場合、「PC内蔵フロッピードライブ」は選択できません。USBフロッピードライブを使用してください。

※サポート機種の最新情報は弊社ホームページをご覧ください。

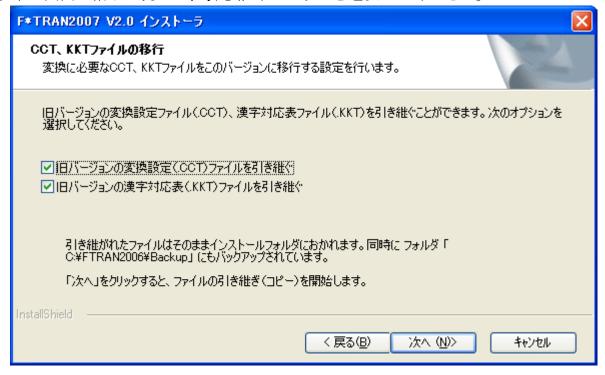
◆ F M V 用フロッピードライバについて

FMV用フロッピードライバは、富士通株式会社が著作権を保有しています。

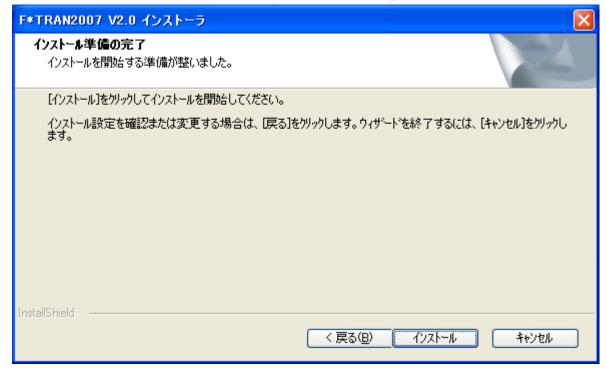
(Copyright© FUJITSU LIMITED 1994-2002. All Rights Reserved)

◆注意 ---- 旧バージョンがインストールされている場合

手順⑦で「既存の変換設定ファイルと漢字対応表ファイルをバックアップする」を選択していた場合、バックアップしたファイルをインストールフォルダに移行するかどうかの選択が可能です。以下の画面の指示に従って、引き継ぐかどうかを選択してください。



⑰ここまでで全ての準備が完了しました。「インストール」をクリックしてください。



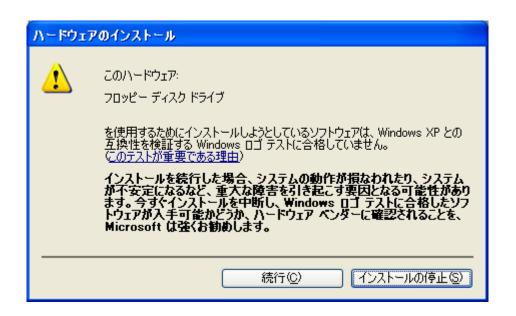
インストール中は以下の画面が表示されます。



◆注意 ---- WindowsXPの場合

Windows XPの場合は、「ハードウェアのインストール」ダイアログが表示されます。 「続行(C)」をクリックしてください。インストールが継続します。

「インストールの停止(S)」をクリックした場合、ドライバがインストールされず、F*TRAN2007が正常に動作しませんのでご注意ください。



また、USB フロッピードライブを選択した場合は以下の画面が表示される場合があります。 同じく「続行(\mathbf{C})」をクリックしてください。

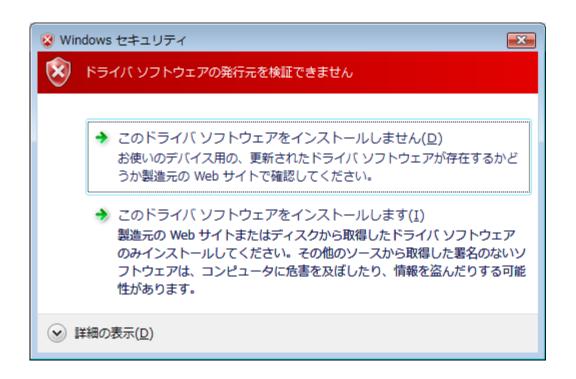


なお、誤って「インストールの停止(S)」をクリックした場合、再度、インストールCD-RO Mから「Setup.exe」を起動して、最初からインストールを行ってください。

◆注意 ---- WindowsVista以降の場合

Windows Vista以降の場合、以下のような画面が表示される場合があります。「このドライバソフトウェアをインストールします(I)」を選択してください。

「このドライバソフトウェアをインストールしません(D)」を選択した場合、ドライバがインストールされず、F*TRAN2007が正常に動作しませんのでご注意ください。



なお、誤って「このドライバソフトウェアをインストールしません(D)」を選択した場合、再度、インストールCD-ROMから「Setup.exe」を起動して、最初からインストールを行ってください。

®インストールが完了すると、パソコンの再起動を則す画面が表示されます。「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択して「完了」をクリックすると自動的にパソコンが再起動します。今は再起動できない時には「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択して「完了」をクリックしてください。インストーラが終了します。



◆注意 ---- インストール後は必ずパソコンの再起動が必要

インストールを完了する為にはインストール終了後にパソコンを再起動する必要があります。 再起動しないとF*TRAN2007が正常に動作しませんのでご注意ください。

■問い合わせに備えて

インストール時に設定した情報は、F*TRAN2007のヘルプのバージョン情報ウインドウに表示されます。



これらは、後日の問い合わせのときに必要になります。さらに購入元、購入担当者名、購入年月日がわかる場合は、これらの情報も併せて、お控え下さい。

■Read Meファイル

F*TRAN2007のインストール後のディレクトリには、本書を補う事柄が書かれたテキストファイル README. TXT というファイルがあります。これは、必ずお読みください。

■PDFマニュアル

セットアップタイプの指定でカスタムを選択してオンラインマニュアルをインストールしていない場合を除き、スタートメニューより、プログラム (\underline{P}) \rightarrow F - T R A N 2 0 0 7 \rightarrow マニュアル (コマンド編/解説編/導入編/マルチレコード編/プログラム応用編)を選択すると、P D F マニュアルが見られます。

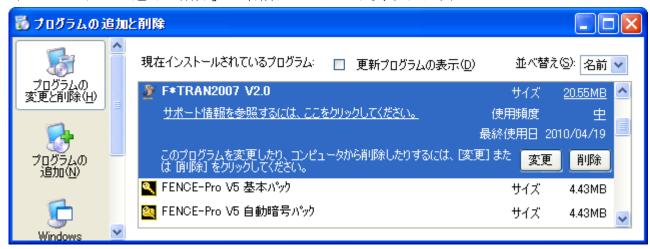
PDFマニュアルはすべて、「Acrobat Reader」などのPDFビューワで表示してください。

1. 5 メンテナンスの実行

メンテナンスは、既にインストールされているF*TRAN2007に対してモジュールの破損の修正、および機能の追加・変更を行うためのものです。

以下の手順に沿って進めてください。

①Windowsの「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」を開きます。 (「プログラムの追加と削除」の名前はOSにより異なります)

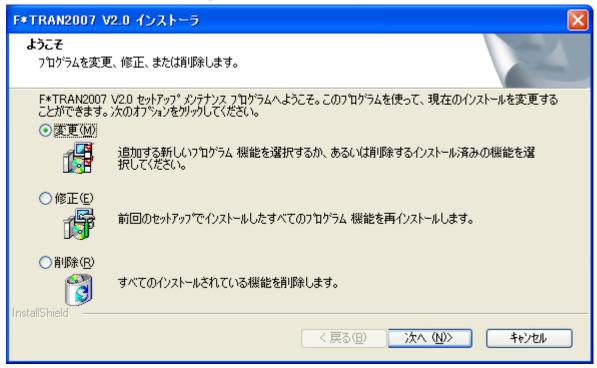


※この画面はOSにより異なります。

◆参考 ---- CD-ROMからの実行も可能

既にF*TRAN2007がインストールされているパソコンに、製品CD-ROMをセットするとメンテナンスモードでインストーラが実行されます。

②F*TRAN2007を選択し「変更」をクリックします。以下の画面が表示されたら、 各オプションを選択して「次へ」をクリックします。



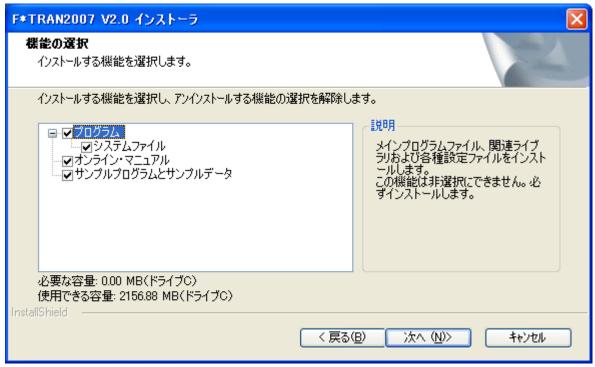
◆注意 ---- WindowsVista以降ではユーザーアカウント制御画面が表示される

Windows Vista以降の場合は以下のユーザーアカウント制御による確認画面が表示されます (OSの設定によっては表示されない場合もあります)。この場合は「続行(C)」をクリックしてください。処理が継続されます。

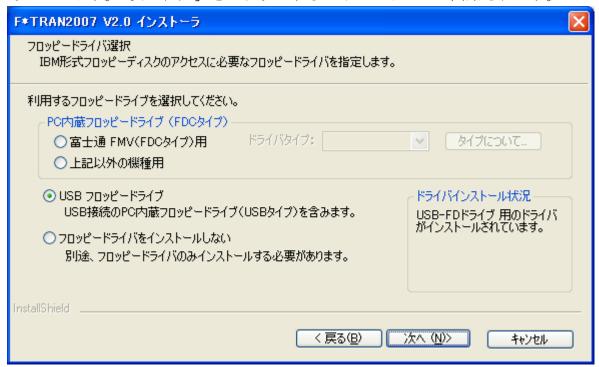


■変更を選んだ場合

①チェックを入れたものがインストールされます。また、チェックを外して次へ進むと、 既にインストールされていた機能がアンインストールされます。



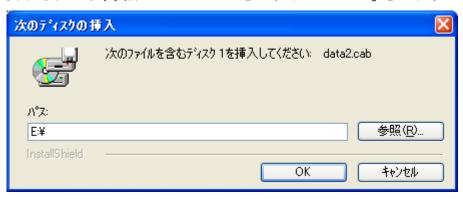
②インストールするフロップードライバを選択します。「ドライバインストール状況」は、 現在インストールされているドライバの情報が表示され、そのドライバが選択された状態 になっています。「次へ(N)>」をクリックするとインストールが開始されます。



③完了まで待ちます。



以下の画面が表示されたら、製品CD-ROMをセットして「OK」をクリックしてください。



途中で警告画面が表示された場合は、本書22ページを参照してください。

④完了です。以下の画面の場合はパソコンの再起動後に変更したF*TRAN2007が使用可能になります。



以下の画面の場合は再起動の必要はありません。そのままF*TRAN2007が使用可能です。



■修正を選んだ場合

①□ のまま進捗画面が表示されるので、完了まで待ちます。



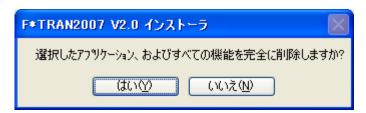
途中で警告画面が表示された場合は、本書22ページを参照してください。

②完了です。以下の画面の場合はパソコンの再起動後に変更したF*TRAN2007が使用可能になります。

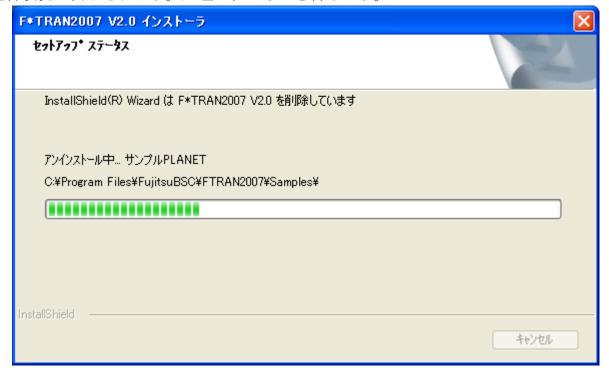


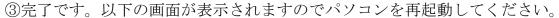
■削除を選んだ場合

①削除の確認画面が表示されます。「はい(Y)」をクリックしてください。



②進行状況が表示されます。処理が終わるのを待ちます。







◆注意 ---- インストールモードの変更はアンインストールしなければ変えられない

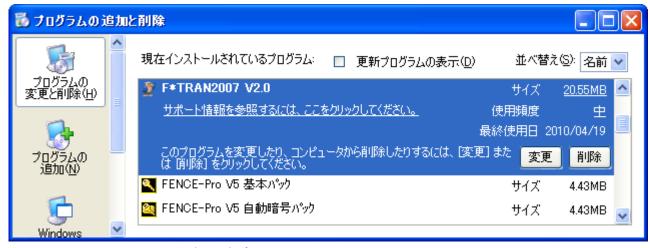
F*TRAN2007における二つのインストールモードは、「変更」や「修正」では切り替えられません。一度、アンインストールした後、再インストールしてください。

1. 6 アンインストールの実行

ハードディスクにインストールした、F*TRAN2007をアンインストール(削除)する場合は、つぎの方法で実行してください。

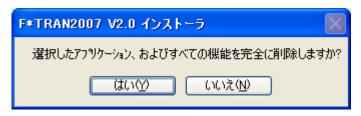
●アンインストールプログラムを実行する

①Windowsの「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」を開きます。



※この画面はOSにより異なります。

②F*TRAN2007を選択し「削除」をクリックします。以下の削除の確認画面が表示されます。「はい(Y)」をクリックしてください。

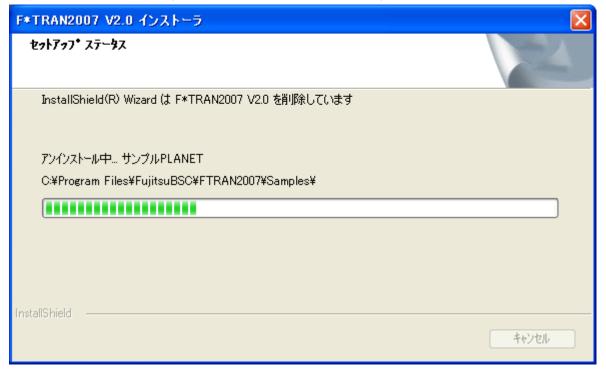


◆注意 ---- WindowsVistaではユーザーアカウント制御画面が表示される

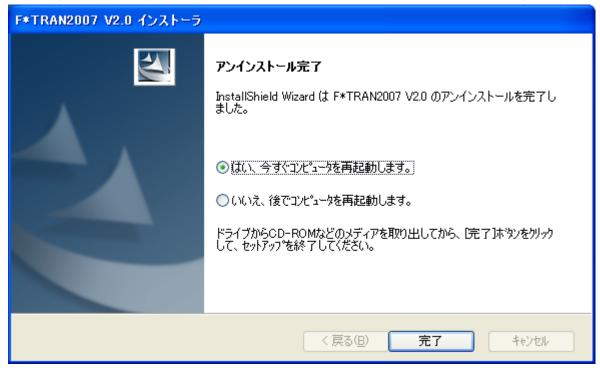
Windows Vistaの場合は以下のユーザーアカウント制御による確認画面が表示されます (OSの設定によっては表示されない場合もあります)。この場合は「続行(C)」をクリックしてください。処理が継続されます。



③進行状況が表示されます。処理が終わるのを待ちます。



③完了です。以下の画面が表示されますのでパソコンを再起動してください。



注意 ---- 標準インストールモードのアンインストールでは、データフォルダが削除されない

標準インストールモードの場合は、各ユーザーデータフォルダが削除されません。CCT、KKTファイルは残るため、バックアップする手間はかかりませんが、消去したい場合は、手動でF*TRANを利用した人数分のユーザデータフォルダの削除が必要です。

注意 ---- 標準インストールモードのアンインストールでは、アプリケーションデータフォル ダが削除されない

標準インストールモードの場合は、各アプリケーションデータフォルダ配下の「FTRAN-FD」フォルダが削除されません。ここには、F*TRAN2007の起動に必要な情報が格納されています。全く新規にF*TRAN2007をインストールしたい場合は手動で削除する必要があります。格納場所は以下の通りです。

<Windows X Pの場合>

\[\(\USERPROFILE \) \(Application \) \(Data \) \[\text{FTRAN-FD} \] \]

<WindowsVista以降の場合>

[%USERPROFILE%AppData\Poaming\FTRAN-FD\]

1. 7 フォルダ構成

F*TRAN2007のフォルダ構成はインストール時に選択したインストールモードにより大きく異なります。

F*TRAN2006、またはそれ以前のバージョンを使用していた場合で、以前の設定を移行する場合には、それぞれの製品のフォルダ構成を比較して、必要なファイルを移動するなどの処置が必要になります。

●F*TRAN2007の設定ファイル

F*TRAN2007では以下のファイルに各種設定が格納されています。

(a) コード変換表ファイル (拡張子 ". CCT")

各社ホストコード別に変換に係わる文字コードの情報、使用する I BM形式フロッピーの 形式、使用する漢字対応表のファイル名などが格納されています。

設定内容は、F*TRAN2007の変換設定画面で確認できて、変更も可能です。新規に作成することもできます。

(b) 漢字対応表ファイル(拡張子 ". KKT")

ホストコードとWindowsコードとの対応関係が格納されています。漢字対応表エディタを使用して、登録内容の確認・編集ができます。新規に作成することもできます。

(c) FTRAN. INI (ファイル名固定)

変換時に使用するコード変換表ファイルのファイル名が格納されています。どのファイルが選ばれているかは、F*TRAN2007のホスト選択で確認ができて、変更も可能です。コマンドで実行する場合にオプションでコード変換表ファイルを指定した場合にはオプションでの指定が優先されます。

また、スクリプトファイルをダブルクリックした場合に、変換を実行するのか、スクリプトファイルを編集モードで開くのかの指定も格納されています。

(d) ENV. INI (ファイル名固定)

各種設定ファイルが格納されている「環境群フォルダ」のパス名や、使用する「環境名」、ユーザーデータフォルダのパス名などが格納されています。「環境」に関する情報は、F*TRAN2007の環境設定画面で確認ができ、変更も可能です。また、コマンドで実行する場合にオプションで「環境名」を指定した場合にはオプションでの指定が優先されます。

注意 ---- F*TRAN2000、およびそれ以前のバージョンでは"FTRAN.INI"、 "ENV. INI" はない

「環境」機能が導入されたF*TRAN2006より前のバージョンでは"FTRAN.INI", "ENV.INI" ファイルはありません。そのかわり、デフォルトのコード変換表ファイルのファイル名が"<math>FT.SYS" に格納されていました。F*TRAN2006以降のバージョンでも"FT.SYS" ファイルは存在しますが、コード変換表ファイル名の格納場所としては使用されていません。

注意 ---- "ENV. INI"は移行対象ファイルではない

F*TRAN2006から設定を移行する場合、F*TRAN2006で使用されていた"ENV. INI"ファイルを直接、移行しないでください。F*TRAN2007では"ENV. INI"ファイルに、ユーザーデータフォルダのパス名が格納されていますが、この情報はF*TRAN2006の"ENV. INI"には格納されていません。

F*TRAN2007をインストールし、最初に起動した時に"ENV.INI"ファイルは自動的に作成されます。

(a)~(d)以外に、以下のファイルにも設定情報が格納されています。これらのファイルは、ユーザーが作成しない限り存在しないファイルです。

(e) スクリプトファイル(拡張子 ". FT5")

F*TRAN2007の画面にある「ファイルメニュー」から「名前を付けて保存」で作成されるファイルです。画面で設定した全ての情報が格納されています。ただし、コード変換表ファイル、漢字対応表ファイルに格納されている情報は、どのコード変換表ファイルを使用するかという情報のみが格納されています。

スクリプトファイルの詳細は「操作説明書/解説編」を参照してください。

(f) パラメータファイル (拡張子 ". P")

F*TRAN2007に与えるオプションなどのパラメータの全部、もしくは一部が記述可能なファイルです。コマンドで実行する場合などにオプションとして指定して使用します。F*TRAN2007の画面から「マップ設定」→「詳細設定」と開き、「ファイルメニュー」で保存を選択することでも作成できます。ただし、その場合に保存される内容はマップ設定のみです。

パラメータファイルの詳細は「操作説明書/コマンド編」を参照してください。

(g) バッチファイル (拡張子 ". BAT")

MS-DOSやWindowsで複数の処理をまとめて行う(バッチ処理)ときに使われる、起動するプログラムを順に列挙したファイルのことです。F*TRAN2007をコマンドで実行する場合に、便利な機能です。

注意 ---- パス名の変更が必要な場合がある

 $(e) \sim (g)$ のファイルには、パス名が記述されている可能性があります。移行に際してフォルダ構成が変更になった場合で、これらのファイルを引き続き使用する場合は、パス名の変更が必要になる場合があります。

注意 ---- 「環境」を使用している場合は移行に注意が必要

F*TRAN2006から導入された「環境」機能を使用している場合、各種設定ファイルが「環境フォルダ」に存在している場合があります。移行に際しては「環境フォルダ」に格納されているファイルも対象とする必要があります。

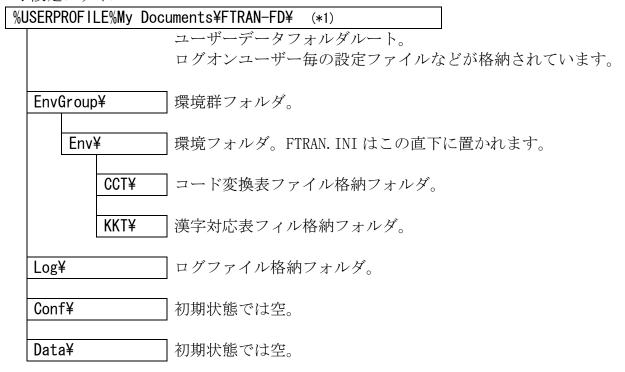
「環境名」はコマンドのオプションで指定されている可能性があります。また、スクリプトファイルには「環境名」が格納されています。「環境フォルダ」を移行した場合で、移行前と場所が変更になった場合、バッチファイルやスクリプトファイルの修正が必要になる場合があります。

●F*TRAN2007のフォルダ構成【標準インストールモード】

◆プログラムファイル (デフォルトフォルダにインストールした場合)

¥Program Files¥Fu	jitsuBSC¥FTRAN2007¥
	インストールルート。 ft.exe、kktedit.exe、および変更不可能な設定ファイルなどが格納されています。
Templates¥]各設定のテンプレートが格納されています。ログオンユーザーが F*TRAN2007を最初に起動したときは、ここから各設定がユーザーデー タフォルダにコピーされます。
CCT¥] コード変換表ファイルのテンプレート格納フォルダ。
KKT¥] 漢字対応表フィルのテンプレート格納フォルダ。
INI¥] INI ファイルのテンプレート格納フォルダ。
LOG¥] ログファイルのテンプレート格納フォルダ。
Manuals¥] 操作説明書の PDF ファイルが格納されているフォルダ。
Samples¥] 各種サンプルファイルが格納されているフォルダ。

◆設定ファイル



%USERPROFILE%Application Data¥FTRAN-FD¥ (*2)

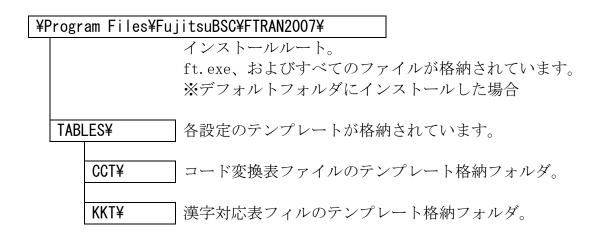
env. ini ファイルが格納されています。

- (*1) OSがWindowsVista以降の場合は以下の所となります。 「%USERPROFILE%Documents¥FTRAN-FD¥」
- (*2) OSがWindowsVista以降の場合は以下の所となります。 「%USERPROFILE%AppData¥Roaming¥FTRAN-FD¥」

注意 ---- ユーザーデータフォルダは初回起動時に作成される

「設定ファイル」として説明されているユーザーデータフォルダ、およびアプリケーションデータフォルダは、F*TRAN2007の初回起動時に初めて作成されます。インストール時には作成されません。

●F*TRAN2007のフォルダ構成【2006互換インストールモード】



注意 ---- 2006互換モードではユーザーデータフォルダは作成されない

「TABLES」フォルダには、初期状態のコード変換表ファイル、および漢字対応表ファイルが格納されていますが、標準インストールモードとは違い、ユーザーデータフォルダが作成されないため、F*TRAN2007の初回起動時に、このフォルダから設定ファイルはコピーされません。インストール後にインストールルートには「TABLES」フォルダとは別に全ての設定ファイルがインストールされています。また、アプリケーションデータフォルダも作成されません。

2006互換インストールモードの場合、初期状態では上記インストールルートが「環境群フォルダ」となっています。また、「環境フォルダ」は環境群フォルダ直下となっています。

●F*TRAN2006、およびそれ以前のバージョンのフォルダ構成

¥FTRAN2006¥ (*1) インストールルート。 ft. exe、およびすべてのファイルが格納されています。 ※デフォルトフォルダにインストールした場合。

(*1) F*TRANの製品により、デフォルトフォルダ名が異なります。

「環境」を導入したF*TRAN2006の場合、初期状態では上記インストールルートが「環境群フォルダ」となっています。また、「環境フォルダ」は環境群フォルダ直下となっています。

第2章

セットアップ

2. 1 セットアップとは

インストールが終わりましたら、次の作業は「セットアップ」です。F*TRAN2007でいうセットアップとは、コード変換表ファイルを選択・修正して、利用者ごとの運用形態に合わせる作業のことです。

●セットアップは何度でもできます

セットアップは、ふつうインストール直後に1回だけ行ないます。しかし、何度やり直しをしてもかまいません。運用形態が変わったり、相手ホストがかわったりしたときに、よくセットアップのやり直しが必要になります。

2. 2 コード変換表とは

F*TRAN2007の動作を決める重要なファイルである、コード変換表(ファイル)について説明します。

●コード変換表(ファイル)とは

コード変換表とは、ANKコードや漢字変換方式の設定、EBCDIC変換に使うANK変換表などが記録されている、拡張子が". CCT"のファイルのことです。

コード変換表ファイルというときと、単にコード変換表というときがあります。コード変換表ファイルというときは、メモリに読み込まれる前のディスク上のコード変換表を指します。単にコード変換表というときは、ディスク上にあるときの状態とメモリに読み込まれた状態の総称です。

通常、コード変換表ファイルは、F*TRAN2007の起動時に指定のディレクトリからメモリに読み込まれます。F*TRAN2007は起動時に読み込んだコード変換表を参照してANK変換、漢字変換、数値変換などを行ないます。これがないと、F*TRAN2007は動作を決めることができません。そのため、

コード変換表ファイルが見つからないとF*TRAN2007は起動すらできない

という制約があります。

出荷時にはつぎのコード変換表が提供されています。

F-TRAN. CCT	標準のコード変換表
F. CCT	富士通方式用のコード変換表(F-TRAN.CCTと同様)
H. CCT	日立方式用のコード変換表
N. CCT	NEC方式漢字変換用のコード変換表
NA. CCT	NEC方式ANK変換用のコード変換表
T. CCT	東芝方式用のコード変換表
I. CCT	IBM方式用のコード変換表(旧F*TRAN版)
I 2. CCT	IBM方式用のコード変換表(IBM正式版)
IORG. CCT	IBM方式用のコード変換表(I.CCT復元用)
M. CCT	三菱方式用のコード変換表
U. CCT	日本ユニシス方式用のコード変換表

ふつうは、この中からホストのタイプに合ったコード変換表を選択し、自社用にセットアップ して使います。なお、利用者がさらに別のコード変換表を作って使うこともできます。

2. 3 コード変換表の出荷時設定

標準提供のコード変換表ファイル9つについて、出荷時の設定がどのようになっているか説明します。

●コード変換表の出荷時設定

F-TRAN. CCT

標準のコード変換表ファイルです。

ANK¬¬F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 富士通JEF方式(ほか、10数種類が登録ずみ)

ANK変換表 ほぼ標準的と思われる設定

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント「標準設定」

F. CCT

富士通のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。出荷時の設定は、上のF-TRAN.CCTとほぼ同じです。

ANK⊐-F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 富士通JEF方式(ほか、10数種類が登録ずみ)

ANK変換表 ほぼ標準的と思われる設定

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント 「富士通方式用」

H. CCT

日立のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANK¬¬F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 日立KEIS方式(ほか、10数種類が登録ずみ)

ANK変換表 ほぼ標準的と思われる設定

ブロック配置モード 日立モード (ブロックはトラック境界をまたがない)

コメント 「日立方式用」

N. CCT

NEC方式の漢字変換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。 NEC内部コード(E)を扱うときは、このコード変換表をお使いください。

ANK¬¬F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 NEC JIPS (E)方式

(ほか、9種類が登録ずみ)

ANK変換表 NEC方式。ただし英小文字は英大文字に変換する

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント 「NEC方式漢字変換用」

NA. CCT

NEC方式のANK変換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。 漢字変換もできますが、NEC内部コード(E)には対応していないのでご注意ください。

ANK¬¬F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

変更しないでください

漢字変換方式 NEC JIPS (E)方式。英小文字が有効

NEC JIPS (J),

NEC内部コード(J)も登録ずみ

(ほか、4種類が登録ずみ)

ANK変換表 NEC方式。修正しないでください

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント 「NEC方式ANK変換用」

T. CCT

東芝のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANK⊐-F JIS8/ASCII←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 東芝方式(漢字コードはJIS)

(ほか、4種類が登録ずみ)

ANK変換表 あるが、使わない

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント 「東芝方式用」

I. CCT / I2. CCT / IORG. CCT

IBMのシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANK¬¬F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 IBM漢字方式(ほか、4種類が登録ずみ)

ANK変換表 ほぼ標準的と思われる設定

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント 「IBM方式用」

I. CCTはF*TRAN98、F*TRAN/NTに添付されていたIBMホスト用のコード変換表ファイルです。I2. CCTはI. CCTのANK変換表をIBM社の正しい規格に改訂したものです。I. CCTのカタカナ版では、英小文字は英大文字に変換します。

IORG. CCTはI. CCTと同じ内容ですが、I. CCTに変更を加えた場合に、元の設定に戻せるように用意したバックアップファイルです。

M. CCT

三菱のシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANK⊐-F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 三菱MELCOM方式(ほか、10数種類が登録ずみ)

ANK変換表 ほぼ標準的と思われる設定

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント 「三菱方式用」

U. CCT

日本ユニシスのシステムとのデータ交換向けに、あらかじめセットアップしてあるコード変換表ファイルです。

ANK⊐-F EBCDIC (カタカナ) ←→JIS8/ASCII

漢字変換方式 日本ユニシスLETS-J方式

(ほか、10数種類が登録ずみ)

ANK変換表 ほぼ標準的と思われる設定

ブロック配置モード 一般モード (ブロックがトラック境界をまたぐ)

コメント 「日本ユニシス方式用」

2. 4 セットアップの手順

●セットアップの手順

セットアップ作業は、つぎの手順で行ないます。

- (1. F*TRAN2007を起動する。)
 - 2. 設定メニューの「ホスト選択」を行なう。 出荷時のデフォルト (標準設定)、または、既に選択した設定でよければ、 「ホスト選択」をする必要はありません。
 - 3. 設定メニューの「変換設定」を行なう。 提供時の設定で問題なければ、変更する必要はありません。 以下の項目を環境に合うように設定・確認してください。
 - ①コメント/ホストのタイプの設定
 - ②漢字変換方式の設定
 - ③漢字対応表の設定
 - ④Windows COBOLベンダの設定
 - ⑤ I BMディスク形式の設定
 - ⑥ホストエンディアンの設定
 - ⑦ブロック配置モードの設定
 - ⑧ANKコードの設定
 - 9ANK変換表の編集
 - 4. コード変換表の保存

設定が完了したら、コード変換表をハードディスクに保存してください。 (保存しないで、試行することも可能です。)

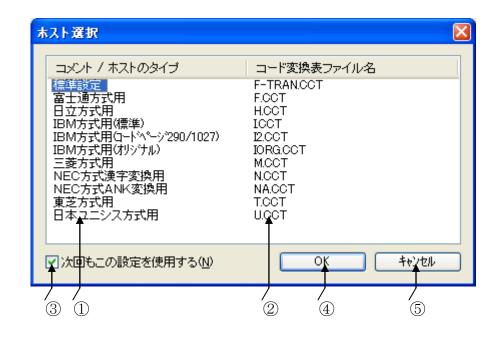
(5. F*TRAN2007を終了する。)

以上です。

スタートメニューより、プログラム (P) \rightarrow F - T R A N 2 0 0 7 を クリックして、F * T R A N 2 0 0 7 を 起動してください。

2. 5 ホスト選択

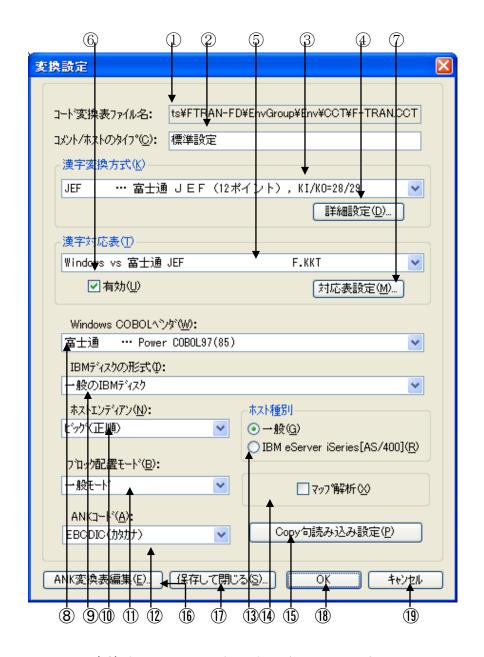
最初に、メニューバーの設定 (\underline{S}) \rightarrow ホスト選択 (\underline{H}) をクリックし、つぎのウインドウを開きます。ここで、基準となるホストを選択します。



- ①選択できるホストのタイプが表示されるエリアです。使用しているホストに合った項目をクリックして選択します。
- ②実際に設定されているコード変換表ファイル名が表示されるエリアです。
- ③選択したホストの情報を保存するためのチェックボックスです。 次回にF*TRAN2007を起動した時に、選択したホストを基準にする場合は、ONに します。一時的にホストを変更する場合は、OFFにします。デフォルトは、ONです。 セットアップでは、ONのままにします。
- ④①の選択が完了した状態でOKボタンをクリックすると、基準となるホストが確定します。
- ⑤キャンセルボタンをクリックすると、ホスト選択を中止します。

2. 6 変換設定

つぎに、メニューバーの設定 (\underline{S}) \rightarrow 変換設定 (\underline{S}) をクリックし、つぎのウインドウを開きます。ここで、コード変換に関する設定等をします。



- ①読み込まれているコード変換表のファイル名が表示されています。
- ②コメントの変更ができます。
 - コード変換表は、漢字20文字(半角40文字)以内のコメントをつけることができます。
- ③漢字変換方式の選択項目です。どの漢字変換方式を使うかを割り当てます。
- ④漢字変換方式の設定変更ボタンです。漢字変換方式の設定内容を細かに変更できます。
- ⑤漢字変換時に使われる漢字対応表を選択することができます。
- ⑥選択されている漢字対応表を有効にするチェックボックスです。

- (7)漢字対応表エディタを起動するボタンです。漢字対応表の修正ができます。
- ⑧Windows COBOLのベンダを選択します。Windows COBOLのゾーン形式データを変換する時に重要になります。
- ⑨ I BMディスクの形式 (一般、三菱) を選択します。 一般と三菱の両方を扱う場合、優先順位をつけてアクセスさせる指定もできます。
- ⑩ホストエンディアン (ホストの2進項目のデータ格納順)を選択します。
- ①ブロック配置モードの選択項目です。日立形式 (IBM形式の日立版) に対応するために、ブロックの配置方法を切り替えることができます。
- ②ANKコードの選択項目です。ホスト系が、JIS8/ASCII系か、EBCDIC系かを設定します。EBCDIC系の場合、カタカナ版か英小文字版の選択をします。
- ③ホスト種別を選択します。 I BMのオフコン「eServer i5」「eServer iSeries」「AS/400」のどれかであるか、その他の一般的なホストであるかを設定します。
- ⑭マップ解析の機能をON/OFFするチェックボックスです。デフォルトは、OFFです。 詳細は、マルチレコード編のマニュアルを参照してください。
- ⑤COBOLのCopy句を読み込むときの設定を行うウインドウが開きます。 詳細は、マルチレコード編のマニュアルを参照してください。
- ⑥ANK変換表の編集ボタンです。6つのANK変換表(1バイト単位のコード変換表)の表示・修正ができます。
- ⑪コード変換表の書き込み(保存)を行ない、変換設定のウインドウを閉じます。 修正したコード変換表を元のファイルに書き戻したり、 別の名前のコード変換表としてディスクに書き込んだりします。
- ®OKボタンをクリックすると、修正した変換設定が有効になります。ただし、 あくまでメモリ上の変更であり、コード変換表ファイルに書き込まれるわけではありません。
- ⑨キャンセルボタンをクリックすると、修正した変換設定を無効にし、 変換設定のウインドウを閉じます。

■コメント/ホストのタイプの設定

コード変換表にはコメント/ホストのタイプをつけておくことができます。セットアップ内容を反映したコメントをつけておくと、安全な操作が期待できます。

■漢字変換方式の設定

漢字を扱うなら、必ず、この設定をしなければいけません。

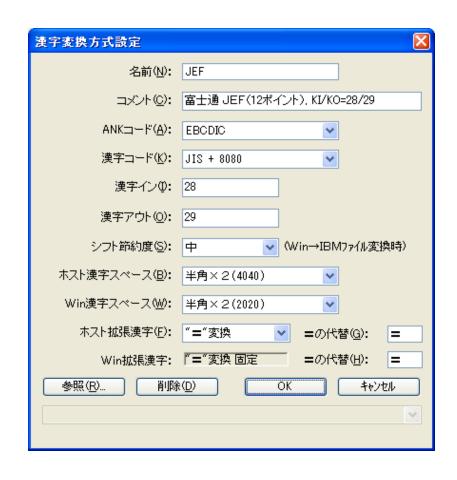
ホストの漢字コード体系は各社各様で、統一された方式はありません。そのため、利用者は、F*TRAN2007に、どの方式で漢字変換を行なうかを教えなければいけません。コード変換表には、あらかじめ数種類の漢字変換方式が登録されています。そのなかから、適するものを選択してください。

●適する漢字変換方式がないとき

適する漢字変換方式がないときは、新規作成を選択し、似た設定のものを参照してアレンジし、 自分で新しい漢字変換方式を登録する必要があります。

●漢字変換方式の詳細設定

適する漢字変換方式 (または新規作成) を選択したら、詳細設定 (\underline{D}) ボタンをクリックして、設定の詳細を確認します。



必要であれば、変更します。設定変更の操作自体は簡単ですが、その意味・内容はわかりにくいものです。操作説明書・解説編の5.17「変換設定」の説明を読んでから、変更を行なってください。

変更の必要がないなら、キャンセルボタンをクリックしてください。

■漢字対応表の設定

漢字変換時に使われる漢字対応表を設定します。漢字体系に合った漢字対応表を選択し、有効 のチェックボックスをONにします。通常は、ホスト選択をした時点で、そのホストに対応した 漢字対応表が設定されていますので、変更する必要はありません。

■Windows COBOLベンダの設定

Windows COBOLのゾーン形式データを変換する場合は、この設定を行ないます。 つぎの7種類から選択できます。選択しないこともできます。

富士通 Power COBOL 97 (85)

日立 COBOL85 NEC COBOL85

マイクロフォーカス Net Express (MICRO FOCUS COBOL)

ACUCOBOL (コンパイルオプション : -Dca) Acucorp ACUCOBOL (コンパイルオプション : -Dci) Acucorp

ACUCOBOL (コンパイルオプション : -Dcm) Acucorp

■IBMディスク形式の設定

IBMディスク形式の設定を、つぎの4つの中から選択できます。

一般のIBMディスク

一般のIBMディスク、三菱のIBMディスクの順でアクセス

三菱のIBMディスク、一般のIBMディスクの順でアクセス

三菱のIBMディスク

■ホストエンディアンの設定

2進形式データを変換する場合は、この設定を行ないます。ホスト2進形式のエンディアン(格 納順)をつぎのどちらかに設定します。

ビッグ (正順) リトル (逆順)

■ANKコードの設定

ANKコードの設定とは、ホストの(IBMファイルの)ANKコード系として、

EBCDIC (カタカナ) コード EBCDIC (英小文字) コード JIS8/ASCIIコード

のどれかが使われているかを設定することです。より正確には、データ交換の相手システムが EBCDICコードを基本とするシステムか、JIS8/ASCIIコードを基本とするシステムかを設定することです。ANKコードの設定は、

ANK文字の変換(Ank変換)

だけでなく、

スペースコードの決定 ゾーン形式の数値項目の変換 パック形式の数値項目の変換

などにも影響します。とても重要な設定であることを忘れないでください。

大部分のホストは、EBCDIC(カタカナ)コードを採用

しています。

◆参考...

EBCDICは「エビシディック」と、少しなまって読みます。 JIS8/ASCIIは「ジスハチ/アスキー」です。 また、ANKは「アンク」です。

■ブロック配置モードの設定

IBMファイルのブロックの配置方式には、ふつうのIBM形式の「一般モード」と、日立のIBM形式の「日立モード」があります。それをF*TRAN2007では「ブロック配置モード」と呼んでいます。

●一般モードと日立モードの違い

日立のIBM形式は一般のIBM形式と異なり、ファイル/ブロックの配置の仕方に

BOE (領域開始アドレス) は常にトラック境界 (セクタ O 1) にする ブロックが、2 つのトラックにまたがることがないようにする

という条件を課しています。システムによっては、さらに、

EOE(領域終了アドレス)をトラック境界にする

という条件もつけています。

このため、ブロック長が大きいとトラック末尾に空きセクタができることがあります。そして、 空きセクタができるとほかのメーカー・システムのIBM形式と互換性がなくなります。

- 一般モードと日立モードの違いを図にしてみます。条件は、
 - ①2HD-256、26セクタ/トラックのフロッピーディスクを使用
 - ②ブロック長は2048バイト

とします。

				_ =	= 1 セクタ
一般モード		•			
	# O				
		ブロック 1	ブロック 2	ブロック3	ブ
	# 1				
		ロック 4	ブロック 5	ブロック 6	ブロック 7
日立モード		•			
	# O				
		ブロック 1	ブロック 2	ブロック 3	空き
	# 1				
		ブロック 4	ブロック 5	ブロック 6	空き

「ブロック配置モード」を「日立モード」に設定すると、ブロック長が大きくて空きセクタができるときでも、問題なく日立のIBM形式のファイルを読み書きできるようになります。

■ホスト種別の設定

IBMのオフコン「eServer i5」「eServer iSeries」「AS/400」の場合、搭載COBOL言語のパック形式の正符号の仕様が、他の一般のホストCOBOL言語と異なっています。ここではご利用のホストに合わせた選択をします。

■ANK変換表の編集

6枚のANK変換表があります。必要であれば、修正を行ないます。操作はごく簡単です。

■コード変換表の保存

ここまでのセットアップ処理はメモリ上で行なわれているにすぎません。つぎからの起動時にもセットアップ作業を有効にするには、それをディスク上のコード変換表ファイルに書き戻して、保存する必要があります。変更点がなければ、キャンセルボタンをクリックして変換設定を終了します。

保存して閉じる (\underline{S}) ボタンをクリックすると、"ファイル名を付けて保存"ウインドウが開きます。通常は、このまま、保存(\underline{S}) ボタンをクリックします。

●セットアップ結果を別の名前のコード変換表に保存したい場合

仮に、X. CCTという名前のコード変換表として、指定のディレクトリに保存したいとします。それには、保存(S) ボタンをクリックして、"ファイル名を付けて保存" ウインドウを開き、ファイル名にXを入力してから、保存(S) ボタンをクリックします。

その後、変換設定のホスト選択でX. CCTを選択します。

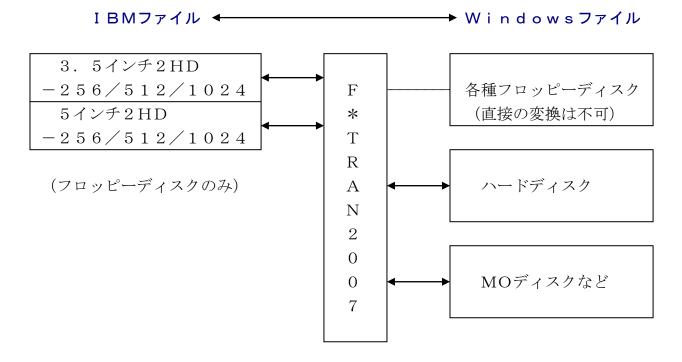
第3章

システム構成

3. 1 扱える媒体

●扱える媒体

F*TRAN2007を使うと、つぎの媒体の間でファイル変換ができます。



この図で、たとえば

3. 5 d > 5 d > 5 d > 5 d > 5 d > 5 d > 6 d > 5 d > 6 d > 5 d > 6 d

◆注意 ---- IBM社の5インチ2HDディスクには扱えないものがある

IBM社のシステム36、システム38、AS/400などで使われている5インチ2HDのフロッピーディスクには、F*TRAN2007では扱えないものがあります。新・旧2通りのフォーマットがあり、旧フォーマットは、通常の5インチ2HDと物理フォーマットにも論理フォーマットにも互換性がないためです。

◆注意 ---- 2種類の3.5インチ2HDディスクを扱える

- 3. 5インチ2HDのフロッピーディスクには、物理フォーマットが
 - ①アンフォーマット容量 1. 6 Mバイト (1. 2 Mバイトのものに対応)
 - ②アンフォーマット容量2. 0 Mバイト(1. 4 4 Mバイトのものに対応)

の2種類があります。

5インチ2HDと互換性があるのは、①のアンフォーマット容量が 1.6 Mバイトのほうです。 三菱のシステムではアンフォーマット容量が 2.0 Mバイトのものに I BM形式の論理フォーマットをかけ、「I BM形式である」としています。この②もF*TRAN2007では扱うことができます。

〈アンフォーマット容量〉

アンフォーマット容量とは物理フォーマットをかけていない状態での容量のことです。物理フォーマットをかけてはじめてセクタの読み書きができるようになります。しかし、そのための制御情報やセクタ間のギャップとして使われる部分がかなりあるため、物理フォーマット後の容量(セクタ長×セクタ数)は減ってしまいます。

◆注意 ---- USB接続フロッピーディスクドライブの場合

ディスク装置に、USB接続フロッピーディスクドライブを使用する場合、 3. 5インチ2 HD-256のIBM形式フロッピーディスクのみ扱えます。3. 5インチ2 HD-512、3. 5インチ2 HD-1024、5インチのフロッピーディスクは扱えません。

3. 2 動作機種とOS

F*TRAN2007 V2. 0は、つぎの条件で動作します。

適用機種・OS

機種	O S (*3)	内蔵FDD	USB接続 FDD(*2)
	WindowsXP (Professional)	△(*1)	\circ
DOS/V機	WindowsVista (Enterprise/Business)	×	0
	Windows7 (Enterprise/Professional)	×	0

(*1) 内蔵フロッピーディスクドライブの場合は、3モード対応の機種であること、3モードフロッピードライバが組み込まれた環境であることが条件。

なお、これらの条件が揃っていても動作しない機種があります。

- (*2) 以下のロジテック製USB接続フロッピーディスクドライブの機種限定。
 - LFD-31UE
 - LFD 31U4
 - LFD-A1U
 - LFD-A2U
- (*3) Server系OS、64bitOS、仮想環境には未対応。

◆注意 ---- スーパーディスクドライブは非サポート

F*TRAN2006までサポートしていた松下電器産業製USB接続スーパーディスクドライブ(LK-RF240UZ)はF*TRAN2007ではサポートしていません。

◆注意 ---- 対応機種は変更になる場合があります

対応機種/ドライブやサポートするエディションなどは変更になる場合があります。

動作環境

●画面解像度 1024×768以上

●メモリ 256Mバイト以上を推奨(OSの種類によって異なります)

●ハードディスク 最大約20Mバイトを占有

<最新の情報>

最新サポート機種、USB接続フロッピーディスクドライブの制限、オプションなどの情報は、 下記のホームページにてご確認ください。

・ホームページ : http://www.bsc.fujitsu.com/services/ftran/

3. 3 ディスク装置

F*TRAN2007が動作するために必要なディスク装置、ドライブ構成について説明します。

●IBM側のディスク装置

IBM形式のフロッピーディスクを扱うため、その種類に合わせて

3. 5インチ2HD用(1Mバイト系のフロッピーディスクをアクセスできるもの) 5インチ2HD用

のフロッピーディスク装置のどちらかが、少なくとも1ドライブは必要です。標準の内蔵ドライブでも、ドライブベイ内蔵用の増設ドライブでもかまいません。ただし、増設する場合は、なるべく純正品を使用してください。また、外付けドライブでは次のディスク装置が使用できます。

ロジテック製USB接続フロッピーディスクドライブ

- · L F D 3 1 U E
- · LFD-31U4
- · LFD-A1U
- · LFD-A2U

●Windows側のディスク装置

Windowsファイルを置くディスク装置の種類は、アクセスが可能なディスク装置なら、問題なく使用できます。通常は、ハードディスク装置を使用します。

F*TRAN2007は、Windowsファイル側に対してはすべて、Windowsの標準のファイルアクセス機能を使ってアクセスします。

◆注意 ---- シングルドライブでのフロッピーディスクどうしの直接交換は不可

フロッピーディスクドライブ1台のみを利用した場合、IBM形式のフロッピーディスクから Windows形式のフロッピーディスクへの、直接のファイル変換はできません。USBの外付けのフロッピーディスク装置などの2台目の装置を用意いただくか、一度ハードディスクを経由して交換をしてください。

第4章

バージョンアップ内容

4. 1 バージョンアップ内容

F*TRAN2007 V1.0 から F*TRAN2007 V2.0 へのバージョンアップ内容は、以下のとおりです。

■Windows 7 での動作をサポートしました。

Microsoftの最新OS「Windows7」上でのIBM形式フロッピーを介した変換が可能です。

※Windows7のJIS2004文字コードの変換には対応していません。

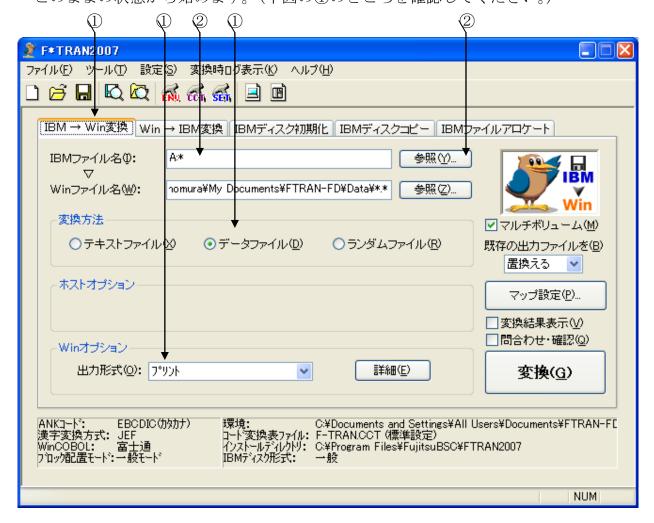
第5章

タッチ&トライ

5. 1 IBM→Winファイル変換

実際に添付の I BM形式のサンプルフロッピーディスクを使って、I BMファイルの"PLANET"をWindowsファイルの"PLANET"に変換する作業を試して見ましょう。

①スタートメニューより、プログラム (\underline{P}) \rightarrow F - T R A N 2 0 0 7 を クリックして、 F * T R A N 2 0 0 7 を 起動します。 起動すると、 つぎのメインウインドウが立ち上がります。 起動時には、 I B M \rightarrow W i n データファイル変換(プリント形式)の状態になっていますが、 これから行なう作業は I B M \rightarrow W i n データファイル変換(プリント形式)なので、 このままの状態から始めます。 (下図の①のところを確認してください。)



②変換する I BMファイル名(\underline{I})を指定します。ファイル名がわかっている場合は、 I BMファイル名の欄に、"A: PLANET"のように入力しますが、 ファイル名がわからないという前提で操作を行ないます。

添付のサンプル I BM形式フロッピーディスクをフロッピードライブ装置に挿入し、 I BMファイル名の参照(Y)ボタンをクリックすると、

つぎの I BMファイル参照ウインドウが開きます。



- ③ I BMファイル参照ウインドウが開いたら、ドライブ(<u>D</u>)の▼をクリックして、フロッピーディスクを挿入したドライブを選択します。
- ④表示 (\underline{V}) ボタンをクリックします。 参照ウインドウの中に "PLANET" というファイル名が表示されれば、正常です

<注意> フロッピーディスクへアクセスした後に、

「IBMディスク入出力エラーが発生しました。」

というエラーウインドウが出てしまった場合は、

F*TRAN2007が正しく動作しない環境であると思われます。

3モードフロッピードライバが正しくインストールされているか等を確認してから、 再度、やり直してください。

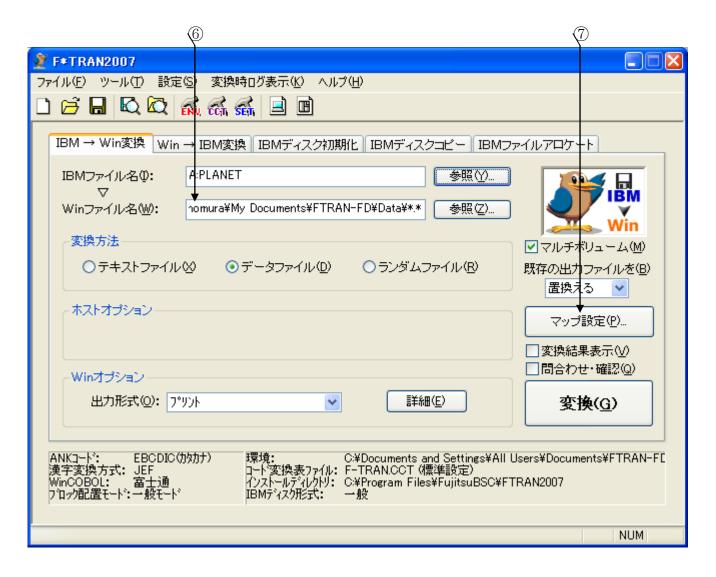
⑤ "PLANET"を変換元のファイルに指定しますので、

"PLANET"をダブルクリックします。

ダブルクリックすると、IBMファイル参照ウインドウが閉じて、

メインウインドウの I BMファイル名(I) のところに、

"PLANET"が指定された状態になります。



- ⑥Winファイル名(\underline{W})の指定は、すでに " \sim *.*"と指定されていますので、このままの状態にします。Winファイル名はIBMファイル名を引き継ぐ指定となるので、 "PLANET"という名前のファイルになります。
- ⑦マップ設定は、変換するデータの中に漢字やCOBOLの数値項目 (パック、ゾーン形式)、 日付データ項目が入っている場合のファイルレイアウトを指定します。 マップ設定 (P) のボタンをクリックすると、つぎのウインドウが開きます。



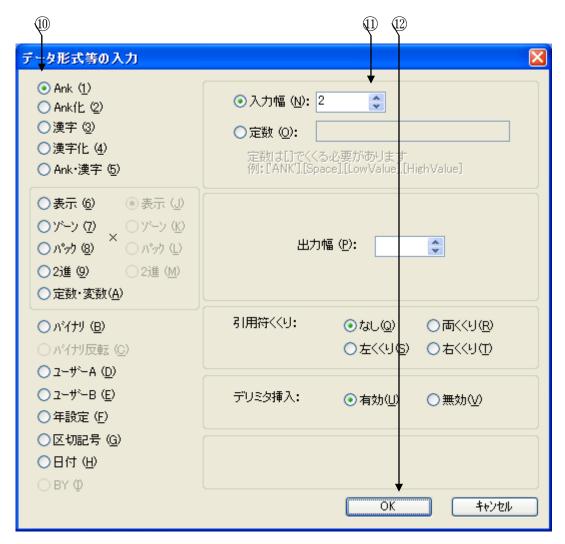
⑧簡易設定(<u>S</u>) が選択されていることを確認してOKボタンをクリックすると、 つぎのマップ設定(簡易)のウインドウが開きます。



⑨マップ設定(簡易)ウインドウのNo. $1 \sim$ No. 11 のデータ形式、入力幅、出力幅を、つぎのように設定します。

N o	データ形式	入力幅	出力幅	コメント (入力不要)
1	Ank	2		No. (惑星番号)
2	漢字	8		和名
3	Ank	1 0		英名
4	Ank	9		読み
5	パック	u 4. 3		質量比
6	ゾーン	u 2		衛星数 (確定済)
7	ゾーン	s 2. 1		極大等級(見かけ上の最大の明るさ)
8	漢字	2 0		英名の意味・由来
9	年設定	w 3 0	w 3 0 (省略可)	<1930-2029>
1 0	区切記号	. (ピリオド)		<9999.99.99>
1 1	日付	y y m m d d	y y y y - mm - d d	レポート提出年月日

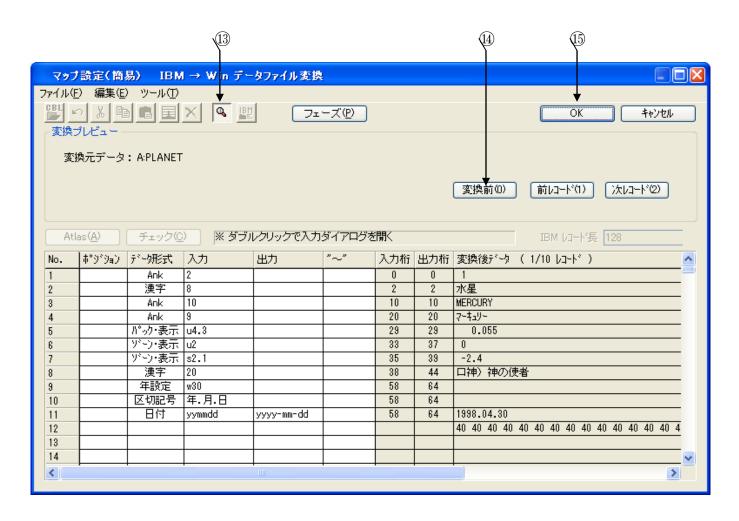
設定はキーボードを使って直接入力してもよいのですが、つぎのように操作すると、 比較的、簡単に行なうことができます。No. 1のデータ形式の欄をダブルクリックすると、 データ形式等の入力ウインドウが開きます。



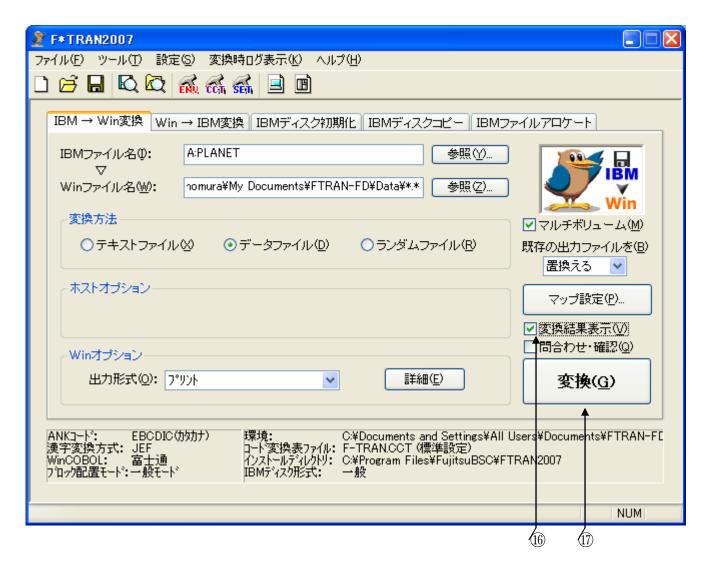
- ⑩Ank(1)をクリックして、データ形式を選択します。
- ⑪入力幅の▲をクリックして、入力幅を2にします。
- ⑫OKボタンをクリックして、設定を確定します。

同様にNo. 2~No. 11を設定します。

- No. 5~No. 7のパック/ゾーンは、整数部と小数部の指定を行ないます。
- No. 7のゾーンは、入力符号ありを選択します。
- No. 9の年設定は、入出力ともにウインドウ方式で1930~を選択します。
- No. 10の区切記号は、ピリオド(年.月.日)を選択します。
- No. 11の目付は、入力にyymmdd、出力にyyyy-mm-ddを選択します。



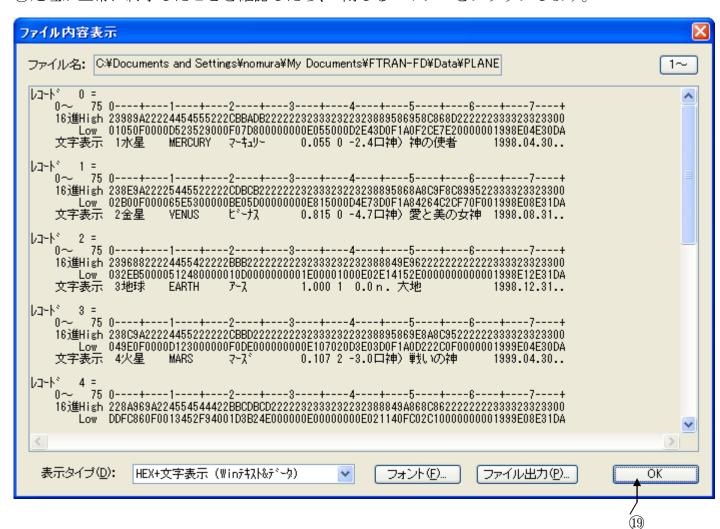
- ③設定がすべて完了したら、変換プレビューボタンをクリックして見ましょう。 プレビューモードにすると、変換前と変換後のデータを前もって確認することができます。 ここで、マップ設定が正しいかどうかを確認できます。
- ④プレビューモードで、変換前/後の切り替えができます。 変換後のデータが正しく表示されているかどうかを確認しましょう。 確認したら、再度③の変換プレビューボタンをクリックして、 プレビューモードから入力モードに戻します。
- ⑮マップ設定が完了したら、OKボタンをクリックしてマップ設定を終了させます。



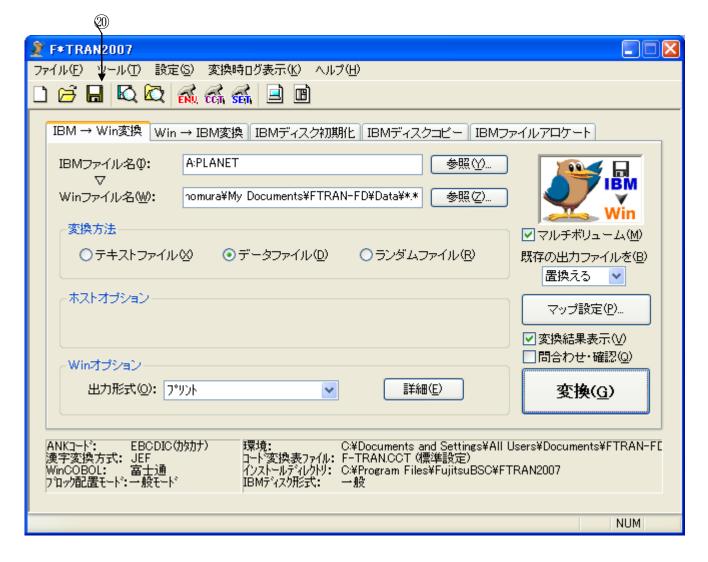
- ⑩変換後にWinファイル(Planet)の内容を表示して確認するために、変換結果表示(V)のチェックボックスをONにします。
- ①設定がすべて完了しましたので、変換(<u>G</u>) ボタンをクリックします。 変換ボタンをクリックすると変換が始まり、 変換中であることを示す実行ウインドウ(つぎのページ) が開きます。



®処理が正常に終了したことを確認したら、"閉じる"ボタンをクリックします。



⑨実行ウインドウを閉じると、つぎのファイル内容表示ウインドウが開きます。 変換結果を確認してみましょう。確認が終了したら、OKボタンをクリックします。



②IBM→Winファイル変換の一連の操作は終了しましたが、いままでに設定した内容をスクリプトファイルに保存することができます。保存する場合は、メインウインドウの"保存"のボタンをクリックします。保存設定のウインドウが表示されたら、OKボタンをクリックし、"名前をつけて保存"のウインドウが表示されたら、ファイル名を入力し、保存(S)ボタンをクリックします。設定が保存されます。

保存したスクリプトファイルは、"開く"ボタンをクリックすれば、いつでも呼び出すことができます。そして、エクスプローラからダブルクリックするだけで、 F*TRAN2007のメインウインドウを開かずに、自動実行させることができます。

第6章

サポート・サービスについて

6. 1 サポート・サービスについて

1. ユーザー登録について

本製品を購入されたユーザー様は、必ずユーザー登録を行ってください。 ユーザー登録は、下記の弊社ホームページから行ってください。 (本製品に、「ユーザー登録カード」は添付されていません)

- 2. 「年間サポート・サービス」について 本製品には、「年間サポート・サービス」が標準提供されています。
 - 本サービスは、本製品の「ユーザー登録」を行っていただくことが必要になります。
 - お問い合わせの際に、ユーザー登録の確認をさせていただきます。未登録の場合、お問い合わせの内容によっては、対応をお断りさせていただくことになりますので、ご注意ください。

サポート・サービスの詳細についてはパッケージに同梱されている「F*TRANサポート・サービス」をご覧ください。

【F*TRANホームページ】

http://www.bsc.fujitsu.com/services/ftran/

【サポートサービスの内容】

- ・ 電話による質問への対応
- E-mailによる質問への回答
- ・ バグ修正版の無償提供

F*TRAN2007 V2.0 操作説明書/導入編

2010年 4月 第1版発行

編集・著作 株式会社 富士通ビー・エス・シー 所 在 地 〒135-8300 東京都港区台場 2-3-1 トレードピアお台場

- ・Windows、MS-DOS、Visual Basic、Access、Visual C++、Excel は 米国 Microsoft Corp.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Acrobat は Adobe Systems Inc. (アドビシステムズ社) の商標です。
- ・F*TRAN は富士通ビー・エス・シーの登録商標です。
- ・会社名および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
- ・本書およびシステムは、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- ・無断複製、および転載を禁じます。